

水俣病 補償も申入れた

寺本知
事語る

去る七月工場側に

寺本知事は四日記者団と会見、さる七月西田新日窒水俣工場長に漁業補償のほか病氣に対する補償も工場がすべきだと申し入れたことを明らかにして、つぎのように語った。

さる七月熊本研究陣が有機水銀説を発表したとき、私は西田工場長を県庁に呼んだ。そのさい私は「問題は重大である。工場はもう一度戦災に会ったつもりで、漁業補償と病氣そのものに対する補償を一本にした形で補償を出すべきだ」と要望した。だが西田工場長は「病氣の原因が工場廃液にあるかどうかはわからないのに、そのような申し入れは受けられぬ」と拒んだ。しかし工場から水俣市漁協に出していた漁業補償が従来のもので、四十万円で三千万円にハネ

上ったのは熊大の発表が大きく作用した結果だと考えている。水俣病問題には二つのジレンマがある。それは漁民が工場に訴えねば工場が廃液処理を完全にしきれないし、漁民が騒げばますます魚は死ねなくなるといふことだ。工場も現在は六千万円をかけて浄化装置などをつくっており、危険な廃液が出なくなれば魚が死ねるようになればPRしなくてはならぬまい。